

宮島観光協会との連携企画展示 「おおっ鳥居!? ～知っときんちゃい、このひみつ～」



令和3年10月5日(日)から12月5日(日)まで、宮島の表参道商店街のほぼ中央に位置するTOTO宮島おもてなしトイレ2階の観光情報スペースにおいて、宮島観光協会との連携企画展示「おおっ鳥居!? ～知っときんちゃい、このひみつ～」を実施しました。

宮島学センターでは、平成21年の開所以来、毎年夏季に広島キャンパス図書館で学生による企画展示を実施し、センターが所蔵する資料を展示公開してきました。

令和2年度は初めて宮島で開催すべく計画しました。展示内容は、およそ70年ぶりの本格的な修理工事をおこなっている大鳥居の「構造」はもちろん、「歴史」についても解説するものでした。「博物館展示論」や「博物館教育論」を履修する学生とともに準備を進めていましたが、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染対策のために、やむを得ず断念することとなりました。

しかしながら、学生たちの学びの成果はパンフレット「宮島大鳥居のひみつ」(大人向け・子ども向けの2種類)にまとめ、宮島観光協会の案内所等に置いていただき、宮島を訪れる修学旅行生や観光客に利用していただくことができました。

令和3年度は、4月より「博物館展示論」(国際文化学科3年次配当科目)を履修する学生ら9名と



大人向け 子ども向け

ともに企画展示の準備を行いました。

ところが、令和3年度も新型コロナウイルス(COVID-19)の感染対策が必要となったため、企画展示の準備はオンライン会議を利用して実施することになりました。特に前期期間中は緊急事態宣言も発出され、厳しい行動制限が求められましたが、学生たちはMicrosoft Teamsや宮島学センターデジタルアーカイブサイトを活用してグループワークを実施しました。

一時は企画展示の開催も危ぶまれたため、展示が中止になった場合は本学ホームページ等で情報を発信することができるよう、展示の内容を3本の動画にまとめることにしました。動画の内容は次のとおりです。

(動画の内容)

- 1 厳島神社の大鳥居～主柱の木材～
- 2 描かれた大鳥居 変わる色彩～江戸時代編～
- 3 描かれた大鳥居 変わる色彩～明治・大正時代編～



学生が作成した動画は、会場に設置されている大型モニターで再生しました。

また、「宮島大鳥居のひみつ」の内容を6枚のパネルにまとめて会場に展示しました。さらに、昭和25年(1950)からおこなわれた大鳥居の主柱の根継ぎ工事の際に撮影された写真4枚を本センターの学外協力員の飯田勝彦さんからお借りして展示しました。



会場の様子



根継ぎ工事の写真

この企画展示には920名の方々にご来場いただきました。展示を観覧された方からは、「分かりやすいパネルで、あまり神社のことを知らなかったが知ることができた。」「大鳥居は修繕中で見られなかったが、パネル展で知識を得られた。修繕が終わったら今日得た知識と一緒に大鳥居を見る楽しみができた。」等の感想を寄せていただきました。

宮島歴史民俗資料館との連携企画

2つの展示をつなぐスタンプラリー

本学の企画展「おおっ鳥居!? ～知っときんちゃい、このひみつ～」と同じ日程（令和3年10月5日（日）から12月5日（日）まで）で、廿日市市宮島歴史民俗資料館では企画展示「厳島神社の大鳥居～戦国時代編～」が開催されました。

どちらの展示も大鳥居をテーマにしていることから、学生とともに2つの展示をつなぐスタンプラリーを実施しました。



2か所のスタンプが押された台紙

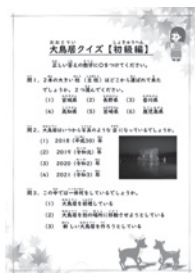
修学旅行で宮島を訪れた児童・生徒さんたちを含め、414名の方々楽しんでいただくことができました。

大鳥居に関するクイズ

宮島歴史民俗資料館企画展示「厳島神社の大鳥居～戦国時代編～」の会場では、学生が作成したクイズも置かせていただきました。

初級編・上級編の2種類を作成し、大鳥居の「構造」や「歴史」に関連する問題だけでなく、「大鳥居の木を食べてしまう生き物はどれでしょうか。」（初級編）といった保存修理に関連する問題や、「戦国時代、大鳥居の再建を申請したり、造営の指揮をしたのは誰でしょうか。」（上級編）といった企画展示のキャプションをよく読まないといけなかったような問題を取り入れました。

展示の期間中、130名の方にクイズを楽しんでいただくことができました。



宮島歴史民俗資料館に設置されたクイズコーナー



令和3年度の「宮島学」関係科目

令和3年度の「宮島学」関係の授業は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）の感染対策のため対面授業とオンライン授業を併用して実施しました。

宮島学（地域文化コース2年次配当科目）

開講期間：第3クォーター、2コマ連続で実施。

授業の形態：Microsoft Teamsを利用したリアルタイム授業

履修学生：39名

授業の構成			
1	9/24	「宮島学」とは何か ゲストスピーカー：綾目桃子さん（国際文化学科4年生）	大知徳子
2	9/24	厳島神社の歴史	秋山伸隆 <small>（本学名誉教授・宮島学センター学外協力員）</small>
3	10/1	平清盛とその時代	鈴木康之
4	10/1	平清盛の経済施策と厳島神社	鈴木康之
5	10/8	厳島神社に伝わる舞楽の源流	柳川順子
6	10/8	厳島神社の舞楽装束	鄭銀志
7	10/15	厳島をめぐる説話形成 —〈平家物語〉を起点に	目黒将史
8	10/15	厳島をめぐる説話形成 —〈平家物語〉を起点に	目黒将史
9	10/22	厳島を楽しむ —厳島を訪れた人びと、支えた人びと	西本寮子
10	10/22	管絃祭の今昔 ゲストスピーカー：栗畑開生さん（経営情報学科4年生）	大知徳子
11	10/29	厳島神社の大鳥居	秋山伸隆
12	10/29	戦争と宮島	秋山伸隆
13	11/5	グループワーク（1）	—
14	11/5	グループワーク（2）	—
15	11/19	グループワーク（発表）	—
16	11/19	グループワーク（発表）	—

第1回と第10回の授業では、卒業論文で宮島を取り上げる国際文化学科の綾目桃子さんと経営情報学科の栗畑開生さん（いずれも4年生）がゲストスピーカーとして参加し、自身の研究内容について語りました。

第13回・第14回の授業では、グループワークを実施しました。履修学生は8つのグループに分かれて課題に取り組み、その成果を第15・16回の授業で発表しました。

宮島観光学入門(英語) (全学共通教育2年次配当科目)

開講期間：第3クォーター（集中講義）

授業の形態：対面（宮島でおこなうフィールドワーク）とMicrosoft Teamsを利用したリアルタイム授業

担当教員：馬本 勉、Richard Weber（非常勤講師）

履修学生：23名

授業の構成		
日	実施日	内 容
1	9/25 9/26	10：40-16：10【3コマ】 オンライン授業（英語演習／宮島についての事前学習）
2	10/3 10/10	10：40-16：10【3コマ】 オンライン授業「宮島観光ガイド」（ガイド実演と質疑応答）
3	10/24 10/31	10：40-16：10【3コマ】 オンライン「バーチャルツアー」（模擬ガイド演習）
4	11/7 11/14	10：40-16：10【3コマ】 宮島「フィールドワーク」（ガイド演習）
5	11/21 11/23	10：40-16：10【3コマ】 オンライン授業（英語動画・レポートの作成）

※今年度より新課程の「地域教養ゼミナールA」の一つとして実施しました。受講者が倍増したため、フィールドワークを含む各回の授業を分散実施しました。

フィールドワーク

11月7日（日）と11月14日（日）には宮島でフィールドワークを実施しました。参加学生を2つのグループに分けて午前と午後の2回、担当教員を外国人観光客に見立て、ガイド演習を行いました。

両日とも、参加学生の充実した表情が印象的でした。



ガイド演習は狛犬・石鳥居の前からスタートし、巖島神社の出口まで行いました。



保存修理工事中の大鳥居の前で、写真を見せながらガイドの練習を行う様子。

宮島観光学（英語）（国際文化学科3年次配当科目）

授業の形態：Microsoft Teamsを利用したリアルタイム授業、グループワークとヴァーチャルガイド実践

担当教員：Richard Weber（非常勤講師）

履修学生：16名、聴講生：1名

授業の構成		
1	4/13	Meet the participants
2	4/20	Begin virtual tour of Miyajima
3	4/27	Continue virtual tour in Itsukushima Shrine
4	5/11	Continue main tour
5	5/18	Finish off the Step by Step Tour
6	5/25	Guiding in more detail
7	5/30	Fieldwork on Miyajima オンライン授業に振替
8	5/30	Fieldwork on Miyajima オンライン授業に振替
9	6/8	Shinto and Buddhism
10	6/15	Practice with guiding
11	6/22	Practice with guiding
12	7/4	Fieldwork on Miyajima グループワークに振替
13	7/4	Fieldwork on Miyajima グループワークに振替
14	7/13	ヴァーチャルガイド実践
15	7/20	ヴァーチャルガイド実践

ヴァーチャルガイド実践

留学生を相手に、各グループとも工夫を凝らした個性豊かなガイドを行いました。



令和3年度公開講座

履修証明プログラム(オンライン／対面講座)

「宮島学で学び直す世界遺産巖島神社と宮島」

講座Ⅱ「宮島学特論」

県立広島大学では、平成31年4月に学校教育法に基づく「履修証明プログラム」を開設しました。

このプログラムは、社会人等の学生以外を対象とし、体系的な知識・技術等の修得を目指した一定のまとまりのある教育プログラムです。

宮島学センターでは、文化施設（博物館、図書館、資料館等）に勤務する方、文化行政に従事している方、観光業に従事している方を対象とした履修証明プログラム「宮島学で学び直す世界遺産巖島神社と宮島」（令和元年9月～令和2年8月）を開設しました。

このプログラムは次の2つの公開講座（総時間62時間）で構成しました。

講座Ⅰ「くずし字で学ぶ宮島-近世資料を読み解く-」

講座Ⅱ「宮島学特論」

講座Ⅰは、令和元年度中に実施しましたが、令和2年度前期期間中の実施を予定していた講座Ⅱは、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染対策のため令和3年度に延期し、ZOOMを利用したりリアルタイム講座と、対面講座（実地研修）を併用して実施しました。

講座Ⅱ「宮島学特論」（令和3年4月17日～8月28日）		
1	4/17	文化遺産の継承とその意義 鈴木康之
2	4/17	平清盛の時代の社会と経済 鈴木康之
3	4/17	厳島神社の内侍 大知徳子
4	4/24	厳島合戦 研究の新段階① 秋山伸隆
5	4/24	厳島合戦 研究の新段階② 秋山伸隆
6	4/24	厳島合戦 研究の新段階③ 秋山伸隆
7	5/15	宮島にもたらされた陶磁器とその背景 鈴木康之
8	5/15	中世瀬戸内海の水運と物流 鈴木康之
9	5/22	儀礼が果たす文化的役割 鈴木康之
10	6/12	柵守房頭と管絃祭 大知徳子
11	6/12	厳島神社と石見銀山 秋山伸隆
12	6/12	地域資料からみる宮島 西本寮子
13	7/3	厳島八景の成立と京の人々 柳川順子
14	7/3	宮島における神仏分離 秋山伸隆
15	7/3	宮島における戦争と平和 秋山伸隆
16	7/10	実地研修 広島城
17	8/28	受講者によるプレゼン発表 -

7月10日（土）には、履修者とともに広島城を訪れ、①広島城の概要、②教育普及事業、③企画展等について高野和彦館長はじめ同館学芸員の小林奈緒美さん、本田美和子さん、篠原達也さんに講義をしていただきました。

常設展や企画展示を実際に見学しながら丁寧な解説をしていただき、また広島城の石垣をめぐるフィールドワークも行っていました。

受講者は、広島城ならではの特徴的な取り組みや多彩な展示企画、コロナ禍での工夫等について学ぶことができました。

8月28日（土）には、履修者2名によるプレゼン発表を行っていただき、本プログラムから得られた学びを職場等でどのように活用していくか、担当教員5名とともにディスカッションしました。

プログラム終了後には、学校教育法に基づいて履修者に履修証明書を交付しました。

宮島学センター公開講座（対面講座）

廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催

今年度も、例年どおり年3回の公開講座を企画していましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染対策のため、令和3年7月と令和4年3月に対面形式で予定していた公開講座はやむを得ず実施を断念しました。

（中止した講座の一覧）

講座名	講師
江戸時代の宮島における弁財天信仰	大知徳子
安芸国の漢詩人、平賀周蔵が詠じた宮島遊覧	柳川順子

広島県内における新規感染者が連続して0人であった12月上旬には、感染対策を十分におこなひ、対面形式の公開講座を実施しました。

第1回「紀行文から見た厳島神社の大鳥居」

日時：令和3年12月8日（水）14時～15時30分

講師：秋山伸隆

会場：サテライトキャンパスひろしま

受講者：29名



大鳥居保存修理工事現場の見学会

令和3年11月29日（月）、厳島神社のご厚意により、特別に大鳥居の保存修理工事の様子を見学させていただきました。

大鳥居の柱の内部は、シロアリによる被害によって大きな空洞が生じているなど、当初想定していたものより深刻で、予定していた工事期間を延長して修復工事が行われています。

この日は、工事の責任者で技師の原島誠さんにご案内いただき、足場が上がって屋根の銅板の張替え作業などを見学しました。

また、修復を終えたばかりの檜皮葺を間近にして伝統的な工法について解説をしていただきました。

腐食により弱くなった柱の補修は、埋木などの

伝統的な工法に加えて、一部をスーパーステンレスの輪や炭素カーボン繊維で支えるなど現代的な工法も使われていました。



銅板の葺き替え作業を見学する学生たち



檜皮葺。張り替えられた赤褐色の銅板は美しく輝いていた。



伝統的な工法(埋木)
柱の傷んだ部分を取り除き、他の木材で埋めている。



現代的な工法
強靱な炭素カーボン繊維を用いた柱の一部分。木目に見えるような加工を施して調和させている。



現代的な工法
スーパーステンレスの輪によって補強された主柱の内部の様子。

この見学会には、パンフレット「宮島大鳥居のひみつ」や今年度の企画展示に関わった学生10名と教員等9名が参加しました。この見学で得られた新たな知見は、来年度以降の事業に活かしたいと考えています。

見学会に参加した学生の感想

大鳥居の見学では、伝統的な技術に最新の技術を織り交ぜながら修復が行われている様子を実際に目にする事ができました。

そして、こうした技術の融合によって文化財が次世代へと継承されていくというのは、文化財そのものだけでなく、現代に生きる人々の想いも同時に受け継がれていくように感じ、再び修復が必要になる時代の人々の目には、今回の修復作業の痕跡がどのように映るのだろうと思いを馳せたくなりました。

日本の文化財の多くは木材で作られているため、必ずいつかは修復が必要となる日が訪れます。つまり、私たちが現在目にするのできる文化財は、その時々を生きた人々の努力の積み重ねが形として表れたものだと言えるでしょう。

私は技術者でないため直接修復作業に関わるようなことはありませんが、これまで文化財を守ってきた人々に敬意を持ち、微力だとしてもできることがあれば行っていきたいと思っています。また、今回修復された大鳥居がこれから何十年、何百年先も多くの人々に愛され続ける未来であることを心から願っています。

(国際文化学科4年 綾目桃子さん)

全国厳島神社参詣記⑬

大知 徳子

八坂神社末社 厳島社

住所：京都府京都市東山区祇園町北側625 祭神：市杵島比売命いちきしまひめのみこと

「祇園さん」として古くより親しまれている八坂神社(京都市)の境内には、平成30年(2018)3月14日に修復された厳島社が鎮座しています。

厳島社は八坂神社の北門と東北門の間に位置しています。



石鳥居には「厳島社」と書かれた扁額が掛けられています。

現地では「市杵島比売命いちきしまひめのみことは素戔嗚尊すさのおのみことが持つ剣から産まれた三女神の内の一神。古くから容姿端麗で舞を踊ることから舞踏謡曲の神として殊に祇園の舞妓芸妓の皆さんに崇敬されています。」と説明されていました。

私が参拝した日(令和元年(2019)7月17日)にも、和装の若い男女が参拝する姿を見かけました。

さて、八坂神社から南に足を延ばした場所に六波羅があります。

12世紀初頭に平正盛が六波羅に設けた「常光院」は、孫の清盛によって泉殿(清盛が六波羅に構えた邸宅)の中に取り込まれました。後に清盛は、常光院に厳島大明神を勧請し「伊都岐島別宮いづきしまべつぐう」としました。

平安時代後期、京都には常光院の他に少なくと

も二ヶ所の「伊都岐島別宮」が設けられました。ひとつは二位殿（清盛の妻、平時子）沙汰の「五条坊門富小路」（五条大橋の西側辺り）、もうひとつは清盛の「西八条第」（東寺の北側辺り）内にありました。「伊都岐島別宮」は現存しませんが、京都市内には他に京都御苑内にも巖島神社が鎮座しています（宮島学センター通信第11号をご参照ください）。

安全に旅行することのできる日常に戻ったら、京都市内の巖島神社や六波羅周辺を散策してみたいかがでしょうか。（大知徳子）

研究余録⑬

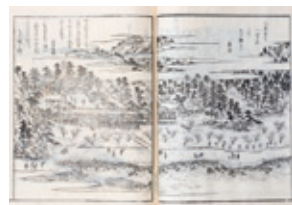
平賀周蔵の詠じた宮島の楽しみ

宮島に関する漢詩を網羅的に収録する『芸藩通志』芸文五から同七までの中で、最も多くの作品が採られているのは、江戸時代の安芸の漢詩人、平賀周蔵（1745—1805）である。作品数が多いなら、きっと何か面白いことが見つかるだろう。そう思って、全二十九首をひとつおとり通読してみた。

まず惹きつけられたのは、中国古典との自在な戯れである。たとえば、石風呂に入った体験を詠ずる長篇の詩「巖島に洞窟有り、六七人坐す可し。薪を焼き潮を澆ぐ。人の疾有りて就きて治を取る者は日に数十人。余も亦た焉ここに試みるに、旬余にして旧痼にはかの頓こに癒ゆ。戯れに歌を作りて其の状を記せば、其の語は俗に近く、其の調は俳に類す。亦た唯だ昼間の無事なるとき以て消閑の興を遣るのみ」（『芸藩通志』卷三十二）の中で、燃え盛る薪の炎の前に詠じた「莫是玉石俱焚灼」という句。これは、善悪の区別なく害を被るという意味を表す、『書経』胤征にいう「火災崑岡、玉石俱焚（火は崑岡に炎え、玉石俱ともに焚く）」に基づき、これに「莫是」という俗語的な言い回しでひねりを加え、「まさか玉石が一緒に焼かれているのではあるまいな」と言っているのである。儒教の経書を用いて大真面目に詠じているのが可笑しい。そうして、蒸し熱さの極致から出てくれば、『莊子』逍遙遊を踏まえて「恰も是れ冷然として風に御りて行くがごとし」と嘯く。

『莊子』に限らず、平賀周蔵の宮島詩には、道家や神仙の思想を下敷きにした表現が少なくない。そして、そうした表現は、いわゆる巖島八景のような名所から少し外れた、隠れ家的な場での交遊を詠じた詩に散見する。これは、彼が幾たびも宮島に足を運び、観光客とはひとつ異なる姿勢で、

当島の人々と深い親交を結んでいたことを物語っているだろう。その友人たちや庵などの場所が特定し難いという困難はあるのだが、この謎もまた彼の詩が人を惹きつけるところである。



「石風呂」〈『芸州巖島図会』卷三、天保13年（1842）〉



「石風呂」（左図の拡大）

（柳川順子）

宮島学センター所蔵資料の貸し出し

広島城で開催された企画展示「江戸の旅と楽しみ」〈9月11日（土）～11月7日（日）〉に宮島学センター所蔵資料を展示していただきました。展示していただいたのは、「道中細見定宿帳」〈嘉永4年（1851）〉ほか10点です。

この企画展示は、令和3年9月11日から開催される予定でしたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を予防するため、初日から9月30日まで臨時休館となりました。このため、展示期間は10月1日から11月7日までとなり、公開を楽しみにされた多くの方が来場されました。

編集後記

宮島学センター通信第13号をお届けします。令和3年度も、昨年に続き新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を受け、いくつかの事業を中止することとなりました。今後の活動につきましては、宮島学センターのホームページやデジタルアーカイブサイト等で発信してまいります。令和4年度こそ、皆様と宮島でお会いできるよう願っております。（〇）

編集・発行

宮島学センター通信 第13号

令和4年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9534（地域連携センター）

E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ:

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/miyajima/>